



西日本支部 春の研究会 2024年3月9日(土) 14:00~15:30

1. 菱田志乃 (京都大学 人間・環境学研究所)

混乱のスティグマ：ダイアナ・ウィン・ジョーンズ *Witch Week* におけるチャールズの傷 “blister”

ダイアナ・ウィン・ジョーンズ作、クレストマンシーシリーズの *Witch Week* (1982) はwitch (魔女) が火刑にあう世界であること以外は一般的なイギリスの80年代の寄宿学校が舞台である。物語の主要人物の一人であるチャールズ・モーガンは自分が witch (魔女) であることを知り、火刑を恐れながらも魔法を使わずにはいられない状態となる。彼は魔法を使わないための戒めとして自分の指を焼くという自傷を行う。その時に出来た指の傷 “blister” はその後も何度も登場する。先行研究ではチャールズの言葉の使い方に注目されていたが、指の傷については詳しく取り扱われてこなかった。本発表では指の傷 “blister” がスティグマとなる点に着目し、チャールズの混乱をいかに描いているかを明らかにする。

2. 英語圏児童文学研究会 伊達桃子・神村朋佳・竹村理世・藤原典子

英語圏児童文学研究会(CCLE)活動報告その1：若い読者に古典を届けるために

1. *Little Women and Me* に見るメタ・フィクションの功罪
2. *Spinning Silver* に見る昔話の語り直し

英語圏児童文学研究会(Circle of Children's Literature in English, CCLE)は、1998年に関西で発足した児童文学愛好者による研究会。現代作家の代表作や新作を中心に、英語圏の児童文学を輪読する活動を行っている。現在まで110冊以上の本を読了し、初期の活動は『英語圏の新しい児童文学—クローディアからハリー・ポッターまで—』(彩流社、2003年)にまとめられているが、2010年以降の活動について、今後随時テーマを決めて発表を行っていく。

今回は、『若草物語』を下敷きにしたLauren Baratz-Logstedの *Little Women and Me* (2011)、および昔話の「ルンペルシュティルツヘン」「シンデレラ」をモチーフに取り入れたNaomi Novikの *Spinning Silver* (2018) を取り上げ、若い読者に届くように古典的な物語をアップデートしていく手法について考える。

参加費無料

オンラインライブ開催
(見逃し配信はありません)

問い合わせ：west-jscle@gmail.com

申込期限：2024年3月6日(水)

詳細・申込み：peatixにて→

<https://seminar02-2023-jsclewest.peatix.com/>



英語圏児童文学会西日本支部

